

SSS020-P04

会場:コンベンションホール

時間: 5月25日17:15-18:45

房総付加体中に発見された地震性滑りの痕跡

Co-seismic high-speed thrusting in the shallow portion of an accretionary prism

濱田 洋平^{1*}, 廣野 哲朗¹, 石川 剛志², 大橋 聖和³

Yohei Hamada^{1*}, Tetsuro Hirono¹, Tsuyoshi Ishikawa², Kiyokazu OOHASHI³

¹大阪大学大学院理学研究科宇宙地球科学専攻, ²海洋研究開発機構高知コア研究所, ³広島大学大学院理学研究科

¹Grad. Sch. Sci., Osaka Univ., ²JAMSTEC, ³Grad. Sch. Sci., Hiroshima Univ.

付加体浅部に発達する断層は、津波の発生やその規模に大きく寄与しており、その断層の滑り挙動を調べることは、南海トラフ掘削計画においても大きな目標となっている。近年、断層物質を採取して化学分析を行うことで地震時の現象を解明し、滑りパラメータを推定する試みが行われている。そこで本研究では、過去に付加体浅部に発達していた断層の滑りパラメータを推定することを目的とし、構造解析、化学分析を行った。その結果、地震性滑りの直接的な痕跡であるシュードタキライトを発見し、また350°C以上の高温流体との相互作用の痕跡がみられた。この結果をもとに数値解析を行い、過去の付加体浅部にて、少なくとも1m以上の変位を伴う高速すべりが起こり得たことが分かった。

キーワード:シュードタキライト,付加体

Keywords: pseudotachylyte, accretionary prism